

図 1-2-3(1) O2 稼働位置図 (北品川非常口・目黒川変電所：秋季)

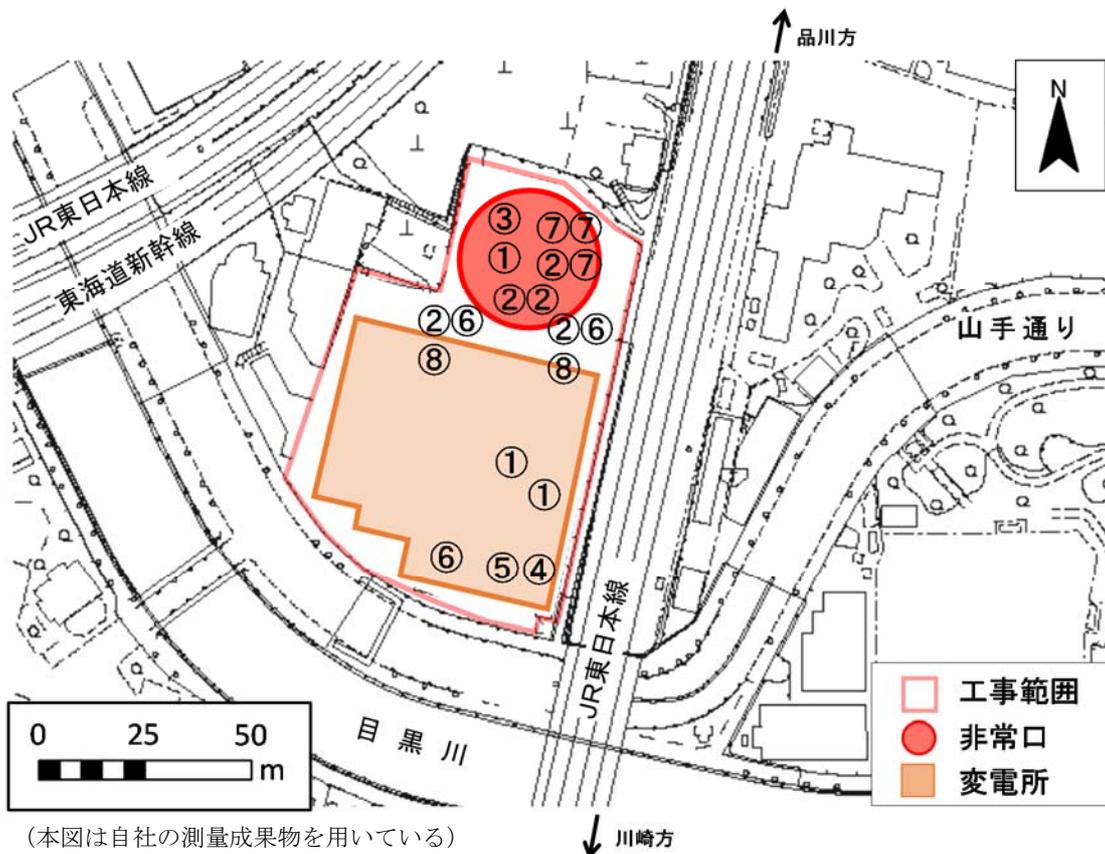


図 1-2-3(2) O2 稼働位置図 (北品川非常口・目黒川変電所：冬季)

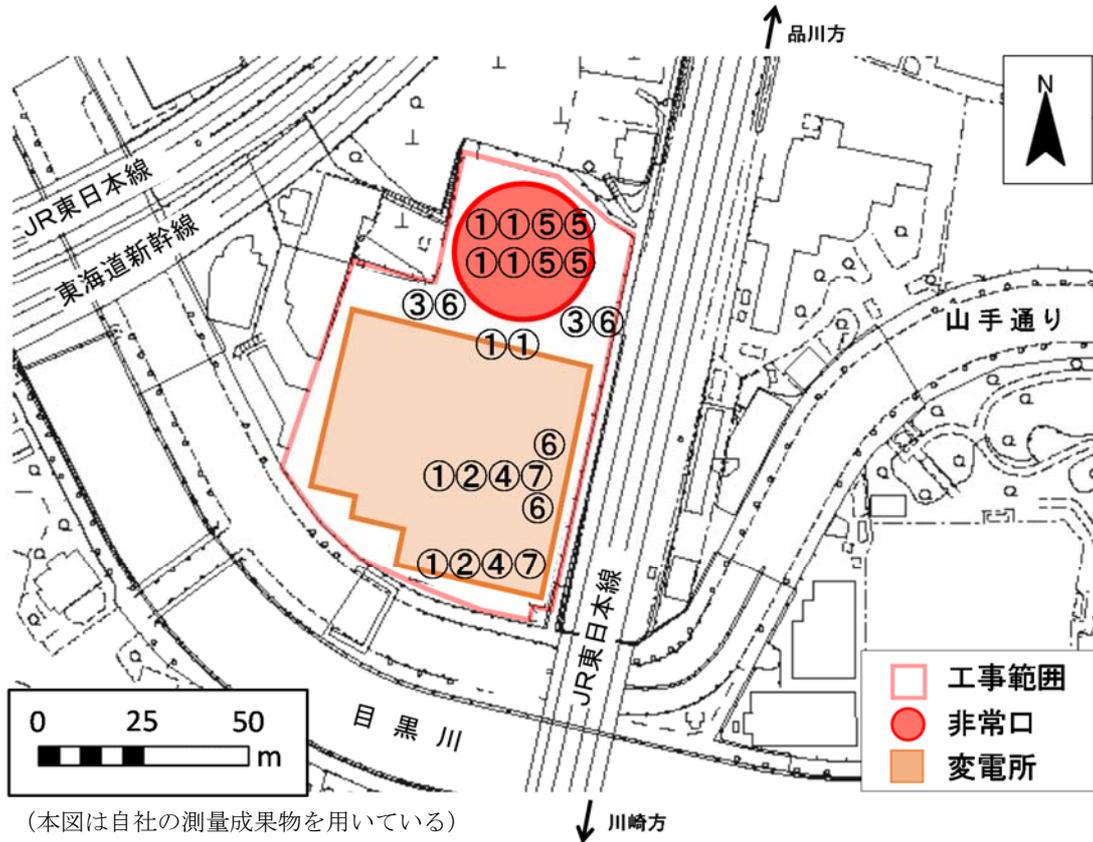


図 1-2-3(3) 02 稼働位置図 (北品川非常口・目黒川変電所：春季)

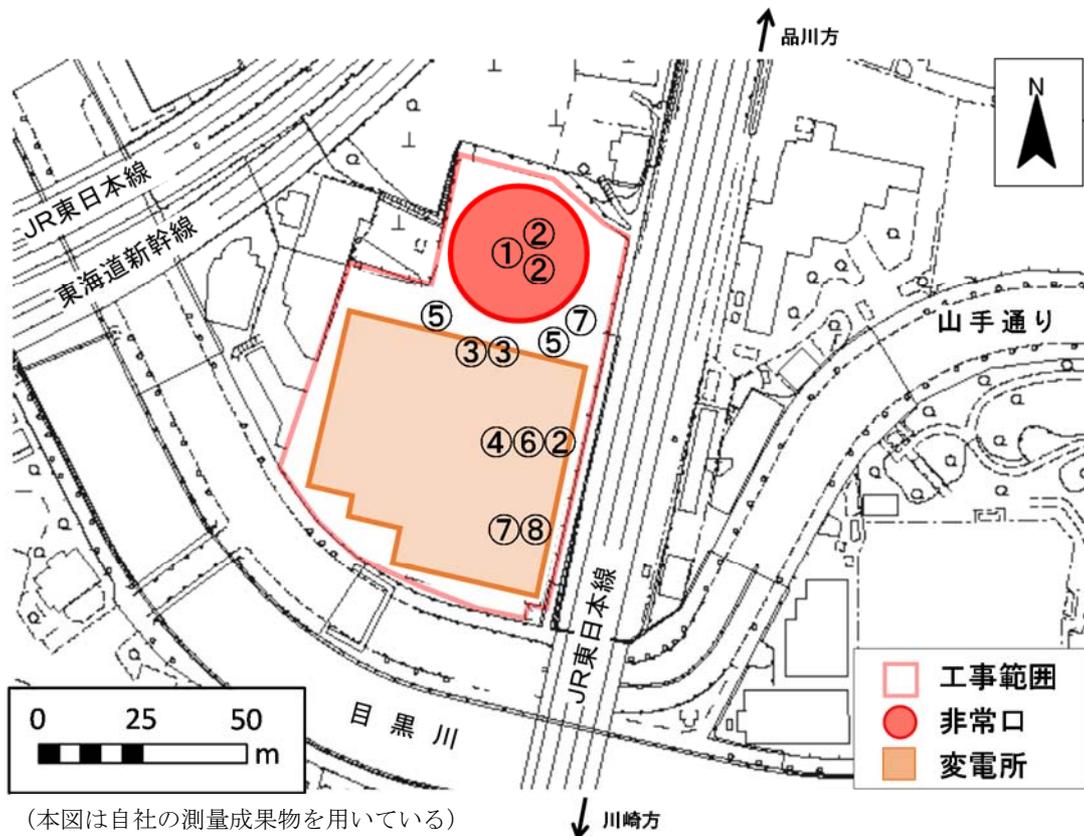


図 1-2-3(4) 02 稼働位置図 (北品川非常口・目黒川変電所：夏季)

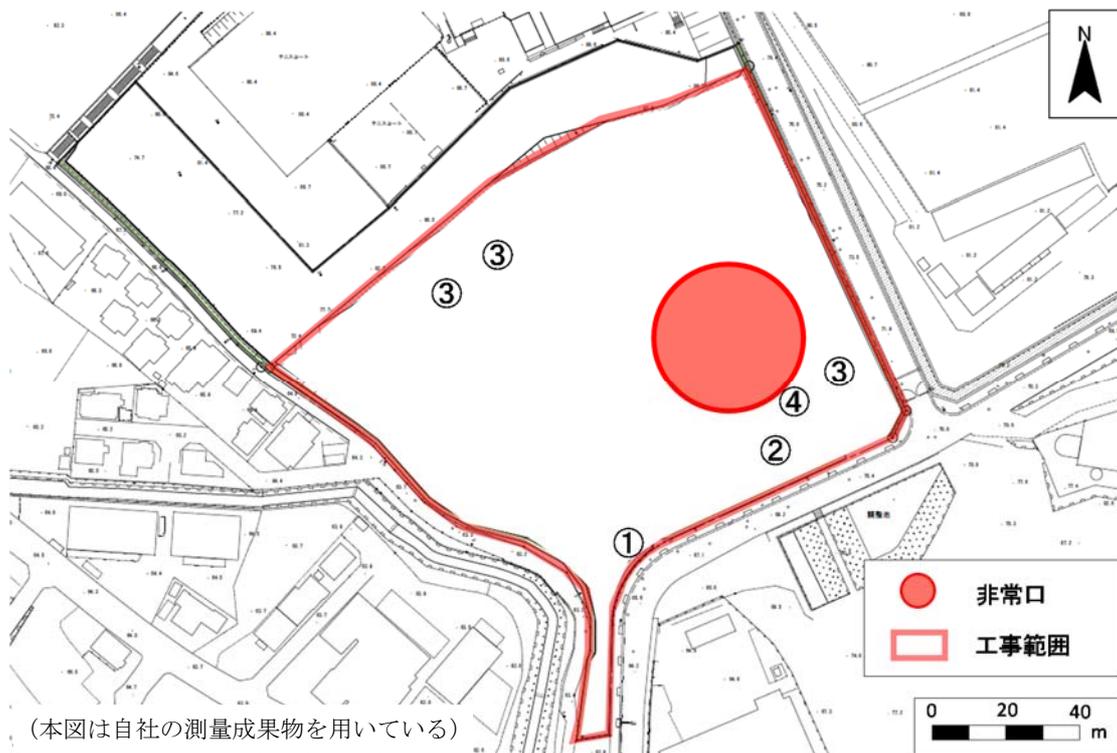


図 1-2-3(5) 05 稼働位置図 (小野路非常口：春季)

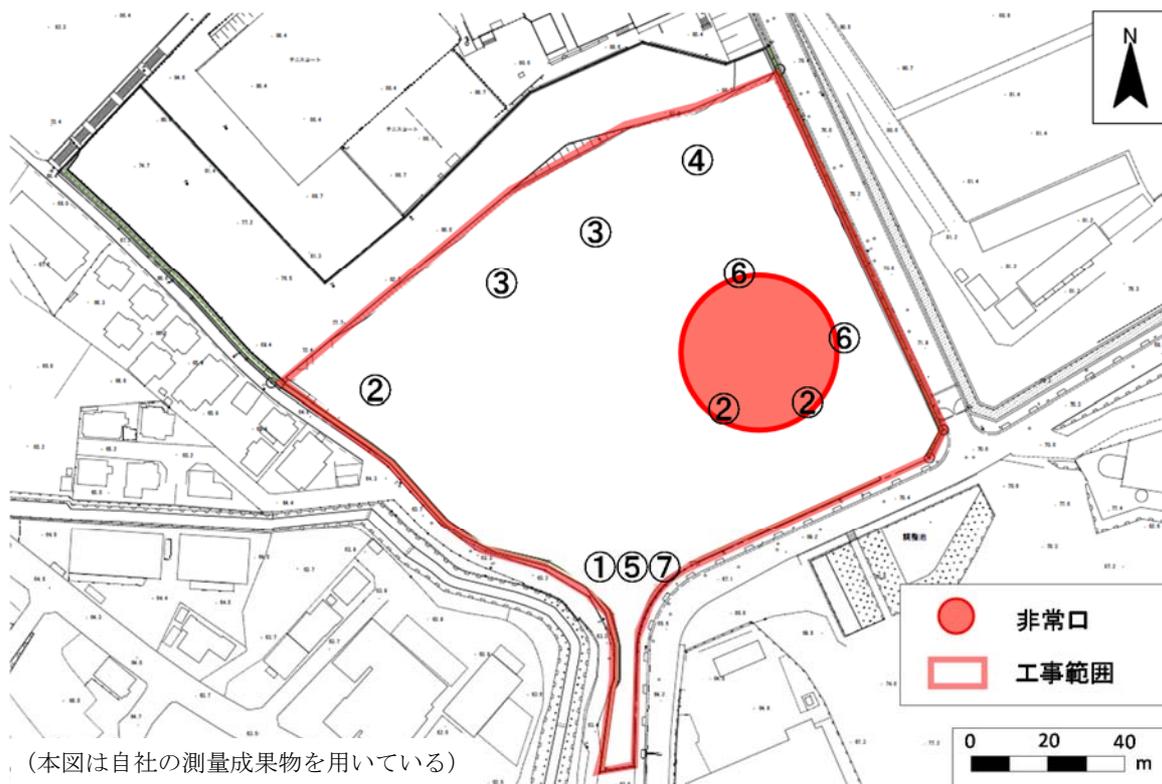


図 1-2-3(6) 05 稼働位置図 (小野路非常口：夏季)

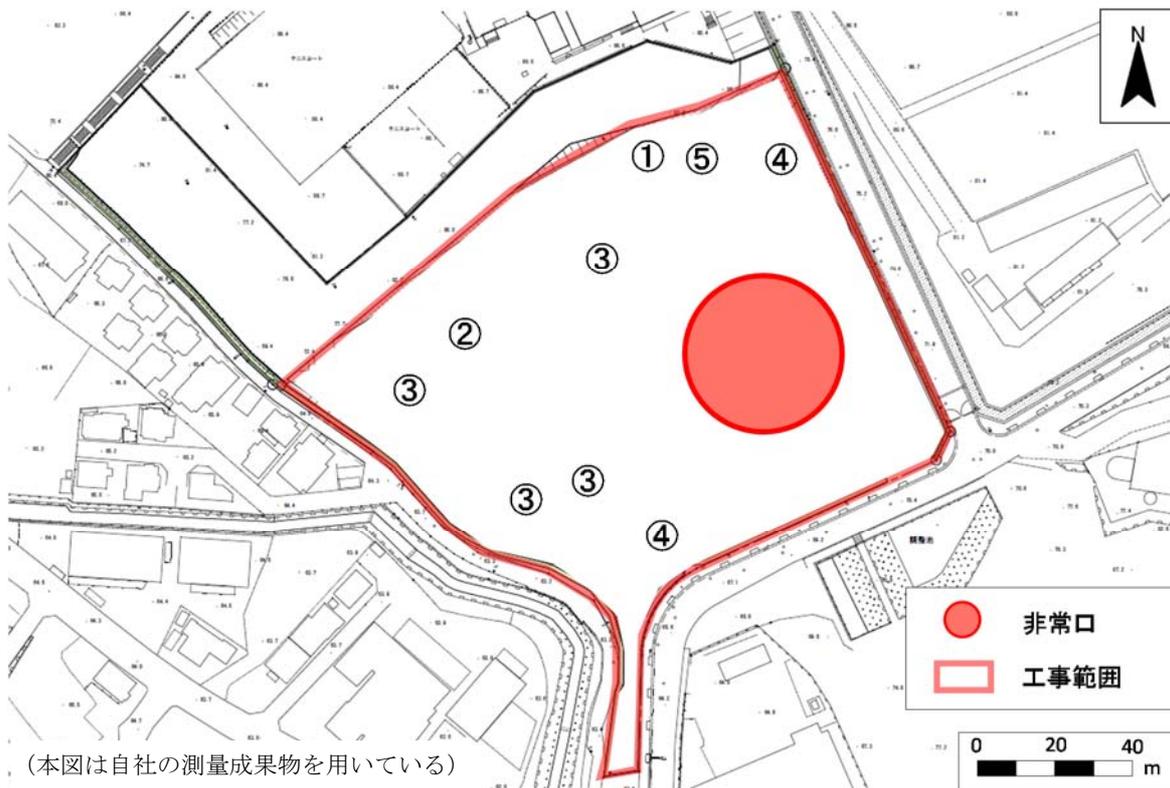


図 1-2-3(7) 05 稼働位置図 (小野路非常口：秋季)

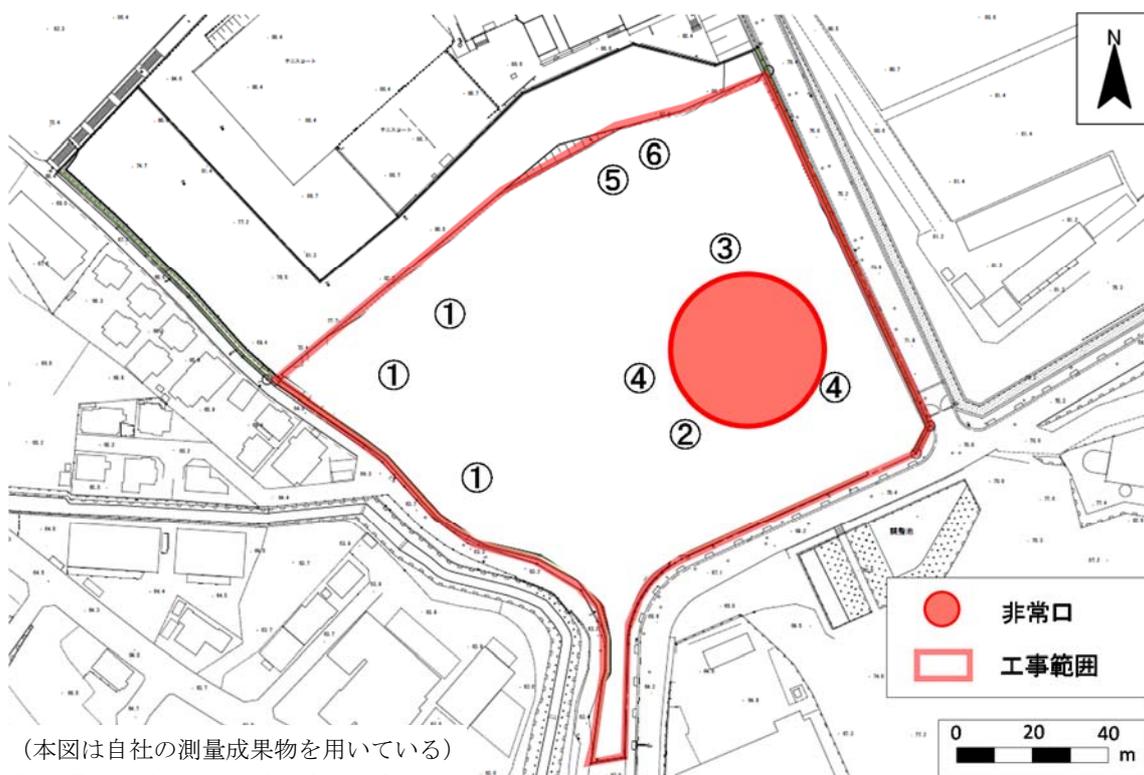


図 1-2-3(8) 05 稼働位置図 (小野路非常口：冬季)

③ 環境保全措置の実施状況

工事の施行中の環境保全措置の実施状況を、表 1-2-5 に示す。

なお、平成 29 年 4 月から平成 31 年 3 月までの間、粉じん等に関する主な意見等は、表 1-2-6 に示すとおり、1 件であった。

表 1-2-5 環境保全措置の実施状況

環境保全措置	実施状況
工事規模に合わせた建設機械の設定	【全地点】工事規模に合わせて必要以上の建設機械の規格、配置及び稼働とならないように計画することで、粉じん等の発生の低減に努めた。
工事現場の清掃、散水	【全地点】工事現場の清掃、散水を行うことで、粉じん等の発生の低減に努めた。(写真-1)
仮囲いの設置	【全地点】住居等周辺環境を考慮した仮囲いの高さの検討を行ったうえで仮囲いを設置することで、粉じん等の拡散の低減に努めた。(写真-2)
工事の平準化	【全地点】工事の平準化により片寄った施工を避けることで、粉じん等の局地的な発生の低減に努めた。

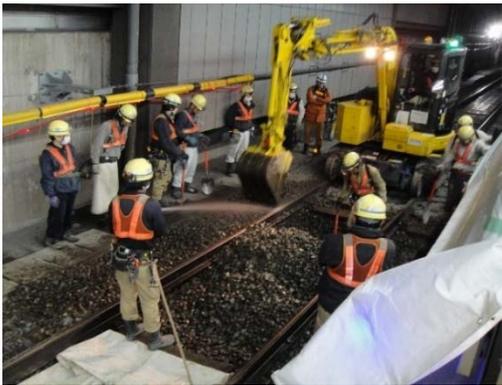
	
<p>写真-1-1 工事現場の清掃、散水の状況 (地点 01)</p>	<p>写真-1-2 工事現場の清掃、散水の状況 (地点 05)</p>
	
<p>写真-2-1 仮囲いの設置状況 (地点 02)</p>	<p>写真-2-2 仮囲いの設置状況 (地点 03)</p>

表 1-2-6 主な意見等の内容

場所	件数	当日の作業	意見の内容	対応
東雪谷	1	準備工 (仮土留め工)	・粉じんで窓が汚れた。	・こまめに散水を行った。

(2) 環境影響評価書の予測結果と事後調査の結果の比較検討

工事の施行にあたっては、環境保全措置として「工事規模に合わせた建設機械の設定」、「工事現場の清掃、散水」、「仮囲いの設置」及び「工事の平準化」を実施し、工事の実施に伴う建設機械の稼働に係る粉じん等の環境影響について低減に努めた。

北品川非常口・目黒川変電所における大気質（降下ばいじん量）については、年間（四季）を通じて最大濃度地点で 3.1～4.8t/km²/月であり、直近の住居等で 1.4～2.2t/km²/月であった。環境影響評価書の予測値は、最大濃度地点で 6.94～8.80t/km²/月、直近の住居等で 0.10～0.17t/km²/月であるが、これは工事起因による降下ばいじん量のみを予測した値である。今回の調査結果は、バックグラウンド濃度と建設機械の稼働による寄与分の合計値であるため、環境を保全する上での降下ばいじん量の目安と考えられている指標値(20t/km²/月)と比較した。その結果、影響は十分小さいと考える。

小野路非常口における、大気質（降下ばいじん量）については、年間（四季）を通じて最大濃度地点では 0.9～4.1t/km²/月であり、直近の住居等では 0.8～1.5t/km²/月であった。環境影響評価書の予測値は、最大濃度地点で 4.70～7.30t/km²/月、直近の住居等で 0.06～0.18t/km²/月であるが、これは工事起因による降下ばいじん量のみを予測した値である。今回の調査結果は、バックグラウンド濃度と建設機械の稼働による寄与分の合計値であるため、環境を保全する上での降下ばいじん量の目安と考えられている指標値（20t/km²/月）と比較した。その結果、影響は十分小さいと考える。

以上より、予測結果のとおり、建設機械の稼働に係る粉じん等の影響は小さかったものと考えられる。

表 1-2-7(1) (再掲) 事後調査結果 (降下ばいじん量) 注1

地点 番号	調査地点	事後調査				指標値注2
		春季	夏季	秋季	冬季	
		t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	
02	02-①	4.8	4.6	3.1	3.5	20t/km ² /月
	02-②	1.7	2.2	1.4	1.7	
05	05-①	2.1	4.1	0.9	1.7	
	05-②	1.5	1.5	0.8	1.1	

注1 調査結果は、バックグラウンド濃度と工事起因による降下ばいじん量の寄与分の合計値となる。

注2 環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安として、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km²/月 (「スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律の施行について」(平成2年7月3日環大自84号))を、指標値とする。

表 1-2-7(2) (参考) 環境影響評価書での予測結果 (降下ばいじん量) 注1

地点 番号	調査地点	環境影響評価書				参考値注2
		春季	夏季	秋季	冬季	
		t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	
02	02-①	6.94	8.80	7.15	7.70	10t/km ² /月
	02-②	0.10	0.17	0.12	0.13	
05	05-①	4.70	7.01	7.30	7.14	
	05-②	0.11	0.06	0.18	0.14	

注1 環境影響評価書での予測値は、工事起因による降下ばいじん量の寄与分のみとなる。

なお、環境影響評価書では、建設機械の稼働による寄与分については、上記指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である 10t/km²/月 (平成5年～平成9年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位2%除外値)を差し引いた 10t/km²/月を、基準等の参考値とした。

注2 降下ばいじんの参考となる値は、建設機械の稼働により発生する降下ばいじんについて国等で整合を図るべき基準及び目標は定められていないことから、定量的な評価を行う目安として設定されたものである。

スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km²/月を、環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安と考え、この指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である 10t/km²/月 (平成5年から平成9年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位2%除外値)を差し引いた 10t/km²/月を建設機械の稼働により発生する降下ばいじん量の参考的な値としている。

資料：「道路環境影響評価の技術手法 平成24年度版」

表 1-2-8(1) 建設機械の稼働状況の比較 (02 北品川非常口・目黒川変電所)

環境影響評価書						
種別	主な建設機械					参考値(t/km ² /月) 指標値(t/km ² /月)
	ユニット	ユニット数	稼働時間	最大濃度地点の 予測値(t/km ² /月)	直近の住居等の 予測値(t/km ² /月)	
掘削工	土砂掘削	4.5	8:00～ 17:00	春：6.94 夏：8.80 秋：7.15 冬：7.70	春：0.10 夏：0.17 秋：0.12 冬：0.13	10 20
事後調査						
調査日中の 主な工事内容	主な建設機械					参考値(t/km ² /月) 指標値(t/km ² /月)
	種類	台数 (台/日)	稼働 時間	最大濃度地点の 調査結果 (t/km ² /月)	直近の住居等の 調査結果 (t/km ² /月)	
掘削工、 地中連続壁工 等	①バックホウ	4台	8:30～ 18:00			
	②バックホウ	2台				
	③クローラークレーン	1台				
	④クローラークレーン	2台				
	⑤クローラークレーン	1台				
掘削工、 地中連続壁工 等	①バックホウ	3台	7:00～ 18:00、 20:00 ～6:00	春：4.8 夏：4.6 秋：3.1 冬：3.5	春：1.7 夏：2.2 秋：1.4 冬：1.7	10 20
	②バックホウ	5台				
	③クローラークレーン	1台				
	④クローラークレーン	1台				
	⑤クローラークレーン	1台				
	⑥クローラークレーン	3台				
	⑦高所作業車	3台				
	⑧発電機	2台				
掘削工、 構築工の準備工 等	①バックホウ	8台	7:00～ 19:00、 20:00 ～5:00			
	②クローラークレーン	2台				
	③クローラークレーン	2台				
	④単軸アースオーガ	2台				
	⑤高所作業車	4台				
	⑥発電機	4台				
	⑦コンプレッサ	2台				
掘削工、 構築工の準備工 等	①バックホウ	1台	8:30～ 18:00			
	②バックホウ	3台				
	③バックホウ	2台				
	④クローラークレーン	1台				
	⑤クローラークレーン	2台				
	⑥クローラー式 アースオーガ	1台				
	⑦発電機	2台				
	⑧コンプレッサ	1台				

表 1-2-8(2) 建設機械の稼働状況の比較 (05 小野路非常口)

環境影響評価書						
種別	主な建設機械					参考値(t/km ² /月) 指標値(t/km ² /月)
	ユニット	ユニット数	稼働時間	最大濃度地点の 予測値(t/km ² /月)	直近の住居等の 予測値(t/km ² /月)	
掘削工	土砂掘削	4.0	8:00～ 17:00	春：4.70 夏：7.01 秋：7.30 冬：7.14	春：0.11 夏：0.06 秋：0.18 冬：0.14	10 20
事後調査						
調査日中の 主な工事内容	主な建設機械					参考値(t/km ² /月) 指標値(t/km ² /月)
	種類	台数 (台/日)	稼働 時間	最大濃度地点の 調査結果 (t/km ² /月)	直近の住居等の 調査結果 (t/km ² /月)	
準備工(ヤード造成工)、 ニューマチックケーソン工 等	①バックホウ ②バックホウ ③バックホウ ④ラフタークレーン	1台 1台 3台 1台	8:00～ 17:00	春：2.1 夏：4.1 秋：0.9 冬：1.7	春：1.5 夏：1.5 秋：0.8 冬：1.1	10 20
準備工(ヤード造成工)、 ニューマチックケーソン工 等	①バックホウ ②バックホウ ③バックホウ ④クローラークレーン ⑤ラフタークレーン ⑥ラフタークレーン ⑦サイレントハイラー	1台 3台 2台 1台 1台 2台 1台	8:00～ 17:00			
準備工(ヤード造成工)、 ニューマチックケーソン工 等	①バックホウ ②バックホウ ③バックホウ ④クローラークレーン ⑤高所作業車	1台 1台 4台 2台 1台	7:30～ 17:00			
準備工(ヤード造成工)、 ニューマチックケーソン工 等	①バックホウ ②クローラークレーン ③クローラークレーン ④ラフタークレーン ⑤高所作業車 ⑥スクイドリル	3台 1台 1台 2台 1台 1台	8:00～ 24:00			